

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立 橘小学校

令和 6 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

○児童会を中心に、「生活ふり返しカード」や「あいさつ運動」に年間を通して計画的に取り組んできた。

○「いじめ（いのち）について考える日」に児童集会を実施して、校内での啓発活動に取り組んだ。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○玄関前に自主学習の成果を掲示し、より多くの児童の目に触れる環境を整えた。

○デジタルドリルを学習の中で活用し、児童にも定着してきている。

○1人1授業の中にリーディングスキルを位置づけ、スキルの育成を意識しながら授業づくりを行うことができた。

○「かけ足週間」「縄跳び週間」「健康週間」「給食週間」をそれぞれ実施することで、児童が健康な生活を送り、望ましい生活習慣を身に付けようとする意識を高めることができた。

【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末は、どの学級も活用できているが、「ほぼ毎日」という頻度にはなっていない。

○スクールサポートスタッフの有効活用により、職員の負担を軽減することができた。

○図書委員会で読書チケットやおすすめ本のプレゼントを実施したり、図書室の本を移動式ラックで各学年の身近に置いたりすることで、児童の読書意欲を高めることができた。

○保護者や地域の方と連携した学習活動を各学年で行い、その成果を学習参観などで発表することができた。

○例年行っている小中連携に加え、今年度は幼小連携の一環として、地域の幼稚園や保育園の園児を本校に招待して、体験的な活動を行うことができた。

○児童会を中心に「たちばなまつり」を行い、保護者との連携を深めることができた。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

○令和7年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

○令和7年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 33%以上にする。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。

○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を 93%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（「学習者用端末 月間活用率表」より）

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50%以上にする。

○令和 5 年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 33%以上にする。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。

○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を 93%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（「学習者用端末 月間活用率表」より）

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50%以上にする。

○令和 5 年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

「全市共通目標」である3つの最重要目標の達成に向けて、教職員がひとつになって取り組みを進めることができた。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】においては、

- ・「生活がんばり週間」の取り組みを児童会が中心となり、年間3回実施した。さらに明らかになった課題を改善するために取り組みを重ねて行った。児童のきまりを守る意識を向上させるために、全校朝会、始業式・終業式などの機会においても指導を継続していく。

- ・道徳の学習や日々の取組に加えて、児童会による「いじめ（いのち）について考える日」の集会、外部講師を招いた「折れない心を育てるいのちの授業」、西成警察との連携による防犯教室（年間3回）を実施した。その結果、児童が、自他の「いのち」や「いじめ」について考える学習を充実することができた。今後、児童どうしが友だちのいいところを見つけ合い、伝え合う活動を充実させたり、自分の強みに気づき発揮できる学習環境を整えたり等、自他のよさを知り、認め合える関係を築く「仲間づくり」をさらに深める。

○いじめの未然防止のために、学期ごとの「いじめアンケート」の実施、職員会議や人権教育部会、生活指導部会においていじめ事象の有無や児童の現状について共有化を図った。児童を見守る体制づくりが構築することができた。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】においては、

- ・全教科の学習において、ペア学習やグループ学習、話し合い活動に積極的に取り組み、児童は自分の考えを持ち発表できる児童が増えた。今後は、自分の考えを「深め」、「広げる」ことにつながるように、手立ての工夫を図る。

- ・体育科の授業や体育的行事、「駆け足週間」、「縄跳び週間」など体を動かす機会を設けることにより、様々な運動に取り組むことができた。また、校内体育実技研修で行った活動や運動を授業に取り入れ実践したことにより、児童の技能の向上が見られた。

- ・児童が好き嫌いなく食べることができるよう、目標をもたせたり、個別に励ます声かけを行ったりしながら、給食指導を進めた。また、児童の「食」への興味・関心を高めるために、給食に関する放送やクイズを行ったり、「給食週間」の取り組みを実施したり、栄養素の種類やはたらき、バランスよく食事することの大切さについて指導を行ったりした。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】においては、

- ・全学年において学習者用端末を活用した個人学習を週1回以上実施することができた。今後は、スマートスクールの「心の天気」を毎日入力することを習慣化し、定着させて児童理解を進めていく

- ・デジタル教科書を活用したり、学習者用端末を用いて調べ学習を行ったり、調べた結果をまとめたりする学習を各学年で取り組むことができた。

- ・デジタル教材を必要に応じて活用することはできた。また、デジタル教材の種類も増やし、個人学習の充実を図った。

○学習者用端末を持ち帰り、家庭学習を充実するために、アダプターを増やし活用する環境を整えた。

- ・プログラミング学習については、ほとんどの学年が取り組むことができた。今後は、取り組む教科、適切な時期などを明らかにし、年間指導計画に位置付けていく。

・教員の指導力の強化を目指し、教員のニーズに合った研修を実施することができた。
今後は、より充実した研修内容になるようにしていく。

○学校閉庁日の設定日数を増やしたり、定時退勤の日を設定したりして、超過勤務時間の短縮を図った。さらに、5時限授業による十分な会議時間の確保、会議内容の精選、会議終了時刻の明示、連絡掲示板の活用を組み合わせることで、会議の効率化を図った。

・学校ホームページをほぼ毎日更新し、児童の様子や学習内容を積極的に発信することができた。

・「学校だより」と「学年だより」を一体化し、さらに「ミマモルメ」を活用した配信を行うことで、保護者への確実な情報伝達を実現することができた。

○地域との連携・協働した教育活動を児童会行事だけでなく、学校行事や各学年の取り組みにおいても進めていく。そして、「開かれた学校づくり」を推進する。

次年度は、年間指導時数を見直すことで、さらなる教職員の働き方改革をめざし、教員の超過勤務時間の減少に努め、急速に進む若手教員増加に伴う人材の育成にも力を注げるように運営に関する計画を策定し、実現をめざしていきたい。

(様式例 2)

大阪市立橘小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(91%) ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(93%) ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。(83%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 ○みんなで楽しく学校生活を送るために、学校のきまりを理解し、守ることができるよう、計画的に取り組む。 ○「生活ふりかえりカード」にて明らかになった問題に関する啓発や、児童による点検活動など主体的に行動できるように計画する。	B
指標 ○各学級に「学校のきまり」を掲示し、学期ごとに振り返りや確認を行う。 ○「生活ふりかえりカード」の取組を年間 3 回行う。	
取組内容②【2 豊かな心の育成】 ○すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にすること」を意識し、子どもの自尊感情を高める。 ○いじめを許さない心を育てるために、児童会を中心にいじめ（いのち）について考える日等の集会活動に取り組む。	C
指標 ○校内の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的な回答の割合を 86%以上にする。 ○校内の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的な回答の割合を 96%以上にする。 ○いじめに関する代表委員会を中心とした集会活動に年 1 回以上取り組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

○「生活がんばり週間」の取り組みを年間3回実施した。また、アンケートの結果をもとに児童会で話し合い、明らかになった課題を改善するために「廊下を歩こう週間」などの取り組みを重ねて行った。その結果、児童アンケートにおける「学校のきまりを守っている」の項目の肯定的回答が93%となった。

しかし、高学年を中心にきまりを守れていない児童や、長期休業後にピアスや染髪などをしてくる児童も複数名いる。

取組内容②

○児童アンケートにおける「自分も人も大切にしている」の項目での肯定的な回答では、他者に対しては99%の子どもが肯定的な意見を持つことができた。しかし、「自分」を大切にしている項目が92%、さらに「自分にはよいところがある」の項目については肯定的な意見が83%となり、ともに指標を達成することができなかった。

○道徳の学習や各学年の取組など日々の実践に加えて、児童会による「いじめ（いのち）について考える日」での集会、外部講師を招いた「折れない心を育てるいのちの授業」、西成警察との連携による防犯教室（年間3回）等を実施することができた。その結果、児童が、自他の「いのち」や「いじめ」について考える活動を充実することができた。

○「いじめ（いのち）について考える日」の発表を児童会が中心となって行った。また各学年・学級の実態に応じて、振り返りを行うことができた。

次年度への改善点

取組内容①

○児童が、きまりが守ることができるように、毎週の全校朝会や始業式・終業式などの機会に「学校のきまり」「生活目標」を指導し、これらについて振り返り考える時間を設けることによって意識づけを図る。

取組内容②

○日々の学校生活の中で友だちのいいところを見つけ、伝え合う活動を充実させたり、自分の強みに気づき発揮できる学習環境を整えたり等、自他のよさを知り、認め合える関係を築く「仲間づくり」をさらに深める。

○「いじめ（いのち）について考える日」の集会、「生活がんばり週間」についての取り組みを次年度以降も続けていく。「生活がんばり週間」では児童会だけの活動ではなく、他委員会（放送によるお知らせ）や各クラス単位（ポスター作り）など学校全体の児童でかわることで、より多くの児童の意識を変えていく。

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 33%以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。 ○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を 93%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○毎日の授業や教育活動で、一人一人が自分の考えを発表したり、他の人の考えを聞いたりして、意見を交流する時間を設定する。(ペア学習、グループ学習など) ○児童一人一人の学力や実態に応じたデジタルドリル(navima)の活用を習慣づけ、基礎・基本の定着を図る。	C
指標 ○校内アンケートにおいて「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の児童の最も肯定的な回答の割合を 50%以上にする。 ○児童がデジタルドリルを週 15 分以上取り組めるようにする。	
取組内容② 【5 健やかな体の育成】 ○体育の授業や体育的行事や取組等で、児童の体力の向上を図る。特に走力を高める。	B
指標 ○令和 6 年度の校内の運動能力調査において、3 年～6 年の 50m 走の記録を前年度より 1 ポイント向上させる。	
取組内容③ 【5 健やかな体の育成】 ○バランスの良い食事を心がけて、好き嫌いなく食べようとする意識を高めるように各学級での給食指導や栄養指導を充実する。	A

<p>指標</p> <p>○校内アンケートにおいて「(給食を)好き嫌いなく食べている」の児童の肯定的な回答の割合を 50%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>○各学年でもいろいろな教科の学習において、ペア学習やグループ学習、話し合い活動に積極的に取り組むことができた。しかし、自分の考えを「深め」、「広げる」ところにまでは至ることができなかった。</p> <p>○デジタルドリルは各学年で必要に応じて活用することはできたが、使用している時間がまばらで習慣づけるところまでには至らなかった。</p> <p>取組内容②</p> <p>○体育科の授業や体育的行事、駆け足、縄跳びなど体を動かす機会を多く設けることにより、様々な運動に取り組むことができた。その結果、自分の体を思った通りに動かす力が高まり、50m走の結果も大幅に向上することができた。</p> <p>また、体育実技研修で行ったストレッチ運動や走る活動を授業に取り入れたことで、子どもたちの走るフォームが改善され、記録が向上した。</p> <p>取組内容③</p> <p>○各学級にて児童が好き嫌いなく食べる給食指導を進めることができた。また、完食や苦手な食べ物を少しでも挑戦する等の目標を児童に持たせることができた。好き嫌いがある児童への教員の個別の声かけにより、一口でも食べようとする姿が多く見られるようになった。</p> <p>毎日、給食に関する放送やクイズを行うことで、児童が食育に興味を持つことにつながった。また、高学年では実際の給食の献立を使用しながら、栄養素の種類やはたらき、バランスよく食事することの大切さについて指導することができた。「給食週間」を実施し、給食を残さず食べることを目標にすることで、自分が決めた量を食べるすることができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容①</p> <p>○話し合う目的を明確にし、学習のまとめの場面で「自分の考えが深まったのか」「友達の意見を聞いて、自分の考えが広がったのか」などについて自分の学習を振り返ることができようにする。そして、各学年に応じた視点を持った活動にしていく。</p> <p>取組内容②</p> <p>○児童が「できた」喜びを実感できるように、段階的に指導を行う。また、記録が伸びない児童への指導方法や支援の手立てを考え、工夫を図る。</p> <p>校内における体育実技研修会やメンター研修会を通して、より良い指導方法を共有し指導に努めていく。</p> <p>取組内容③</p> <p>○児童の「食」に対する意識をさらに前向きにするとともに、今後も栄養指導（食育指導）を継続する。また、栄養教諭や給食調理員とも連携しながら、このような指導を進めてい</p>	

◀ ◦

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日 50% 以上にする。(「学習者用端末 月間活用率表」より) ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50% 以上にする。 ○令和 6 年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90% 以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【6 教育 D X の推進】 ・スクールライフ機能を活用し、児童が毎日「心の天気」を入力したり、教職員がミマモルメの「欠席連絡」を日々確認したりすることで、毎日の児童の体調や気持ちについて共通理解し、早期に対応できるようにする。 ・学習者用端末を活用した個人学習（デジタルドリル navima や家庭学習を含む）を週 1 回以上実施する。 ・各学年の児童の実態に応じて、プログラミング学習に年に 1 回以上取り組み、プログラミングに対する意欲を伸ばす。 ・本校の年間計画に沿って、I C T 機器を活用した学習を週 1 回以上実施する。	B
指標 ・令和 6 年度の校内調査で「学校活動の中で学習者用端末を使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 70% 以上にする。	
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。 ・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。	B

指標	・先進的な取組や教職員の希望に応じて全体研修、メンター研修を実施する。(年間全体研修9回、メンター研修5回) ・会議のスマート化を図ったり、会議の終了時刻を明示することで各自が計画的に仕事を進めたりすることができるようにする。 ・「ゆとりの日」を月1回以上設定し、退勤時刻を17時にする。学校閉庁日については、夏季休業日期间中は4日以上、冬季休業日期间中は3日以上設定する。	B
取組内容③【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】	・保護者や地域と連携した学習活動を各学年で1単元以上行う。 (1年：春(秋)さがし／2年：町たんけん／3年：福祉／4年：防災／5年：仕事(職業)／6年：歴史) ・保護者や地域と連携した児童会行事を年で1回以上行う。(「たちばなまつり」)	
指標	・学校ホームページやミマモルメを活用することで、令和6年度の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、昨年度より1ポイント増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①	○どの学年も学習者用端末を活用した個人学習を週1回以上行うことができた。しかし、「心の天気」の入力が遅刻やタブレット忘れなどの理由で入力できないこともあり、学級全員の実施が難しい日もあった。 ○デジタル教科書を活用したり、学習者用端末を用いて調べ学習を行ったり、調べた結果をまとめたりする学習を各学年で取り組むことができた。 ○プログラミング学習については、ほとんどの学年が取り組むことができた。しかし、実施した学期や、実施時間、実施内容などについて全体で共有することが難しかった。	
取組内容②	○教育の質の向上と指導力の強化を目指し、教員のニーズに合った研修を行事予定に計画的に位置づけ、実施することができた。 ○職員会議の開始時刻を早めることで十分な時間を確保するとともに、会議内容の精選、会議終了時刻の明示、連絡掲示板の活用を組み合わせることで、会議の効率化を図った。その結果、会議後の打ち合わせや個人が使用できる時間を確保することができ、業務の円滑な進行につながった。しかし、パソコンにおける連絡掲示板による確認が不十分だったため十分に周知できず、行事や活動に支障をきたす場面もあった。 ○月1回の「ゆとりの日」を設定することはできたが、17時退勤は徹底することはできなかった。また、学校閉庁日については、計画通り夏季休業日期间中は4日間、冬季休業日期间は3日間設定することができた。その結果、教育委員会からの月毎の「時間外勤務時間の人数分布」結果より、月30時間以下の勤務者が昨年度の13名から20名へと増加した。	
取組内容③	○学校ホームページをほぼ毎日更新し、学習内容や児童の様子を積極的に発信することができた。その結果、保護者や地域から「学校の様子がよく伝わる」との肯定的な声を得ることができた。しかし、校内保護者アンケートの結果は、82%となり指標を達成すること	

はできなかった。

○「学校だより」と「学年だより」を一体化し、さらに「ミマモルメ」を活用した配信を行うことで、保護者への確実な情報伝達を実現することができた。

次年度への改善点

取組内容①

○「心の天気」の入力を学校全体で実施できるように、指導を継続していく。

○学習用端末を全児童が活用する習慣を定着するために実施方法の工夫を図る。

○プログラミング学習を実施していくために、取り組む教科、適切な時期などを明らかにし、年間指導計画を見直していく。

取組内容②

○研修会等の調整を行い、放課後の業務時間をさらに確保できるようにする。また、「ゆとりの日」を週1回、そのうち月1回は定時退勤が定着するように努める。

○パソコンにおける連絡掲示板を各自が毎日チェックする習慣の定着化を図る。さらに、連絡会での周知やプリントによる配付も併用し、必要な情報が確実に伝わる仕組みを構築する。

取組内容③

○「ミマモルメ」を活用し、欠席児童や保護者との情報共有を充実する。また、アンケートの質問を「学校は、学習内容や児童の様子を家庭に発信する機会を設けている」と改善する。

○地域との連携・協働した教育活動を児童会行事だけでなく、学校行事や各学年の取り組みにおいても進めていく。（防災体験〈土曜授業〉や車いす体験等）このような取り組みを行い、「開かれた学校づくり」を推進する。